

第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成18年10月18日(水) 5校時
児 童 5年 男子10名 女子6名 計16名
指導者 佐藤 修

1 単元名

人物の考え方や生き方をとらえよう 「わらぐつの中の神様」(光村図書 国語下 大地)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領の「C読むこと」の目標「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」を受けて設定した。

本教材は、現在 - 過去 - 現在という構成になっており、時間の行き来があったり、それに伴う場面の飛躍的な転換があったりする面白さがある。謎解きのような一面もあって、読者の興味をひきつける魅力がある。

文章表現の特徴としては、語り口の中に擬声語、擬態語、比喩、慣用句などを多く用い、想像を誘い、意味合いを濃くしており、自然に、物語の中に引き込まれていくものと考えられる。

主人公の「おみつ」は、純粹で正直で優しく思いやりがあって親しみやすい人物である。現代的ではないにせよ、時代を超えて親しみを感じさせる普遍的な面を持っている人物である。まっすぐな心、純粹な心、深い思いやりの心など目に見えない心のあり方について価値に迫る中で児童が自分自身の考え方・生き方について素直に振り返ることができる教材であると考えられる。

(2) 児童について

読書が好きな児童が多く、朝自習の読書の時間には静かに好きな本を読んだり、休み時間などにも図書室で読書したりする姿も見かける。しかしながら、物語などを選んで読む児童は多くはない。また、言葉や表現に気をつけて、登場人物の気持ちやその場面状況・内容を理解し考えながら読み取することは苦手である。

4月に学習した「新しい友達」では、『クロッカス』が物語の重要な役割を果たしていることに気づくことができた。また、課題にそって気持ちの変化がわかるところにサイドラインを引くこともできるようになり、登場人物の気持ちを文脈に沿って理解することもできるようになった。しかし、一問一答的な学習による理解が多く、一人学びや対話による深まりは少ない。

一人学びでは、課題を解決するためにどのような文章や言葉に着目したらよいか分からず、すぐ気づけない児童もいた。課題を意識させながら場面を繰り返し読み深める中でほとんどの児童が見つめることができるようになってきた。サイドラインを引いて、その理由を書き込んだり、さらに想像をひろめて自分の思いを書き込んだり、意欲的に発表する児童も増えてきている。

(3) 指導にあたって

単元を通して、身に付けさせたいのは、会話文、行動や様子を叙述に即して正確に読み取り、登場人物の人物や考え方をとらえる力である。おみつさんのわらぐつを編む時の態度や大工さんの考え、「心をこめて作ったものには、神様が入っている。」というおばあちゃんの言葉などから、マサエの心の変容を読み取り、作品の主題に迫っていきたい。

「ふかめる」過程では、「一人学び」として、サイドラインを引き書き込みをさせることにより、叙述に即して言葉や文に込められた意味を深く味わわせながら、想像を広げたり深めたり、物語全体、

場面の設定を理解させ、課題解決に向けての流れをつかむ手立てとしたい。

「学び合い」では、児童相互の感じ方、考え方の違いに気づいたり、共通点を見つけたりすることにより、新たな発見をし、読みを深めさせたい。

現在 - 過去 - 現在という構成の巧みさ、個性的な登場人物、小道具（わらぐつ、雪げた、道具箱など）の味わい、転換する場面、印象的なせりふなど、さまざまな面白さを見せてくれる要素がたくさんある。児童が感じたことや考えたことを発表させたり、話し合わせたりすることで、作品の面白さを多面的にとらえさせたい。

単元の終わりには、「人の身になって尽くす心を大切に生きていくことが尊いのであり、人間にとって幸せなのである。」という主題をとらえ、これまでの自分の考え方や生き方を含めた感想を書かせ発表させたい。さまざまな価値や見方を知り、物語を深く読み取ることの楽しさを味わうことのできる児童を育てたい。

3 単元の目標

行動描写、会話などから人物像を読み取る方法を知って読み、人物の考え方・生き方について自分なりの感想をもつ。

(1) 関心・意欲・態度

- ・物語の温かさにひかれて、心に残る言葉や文章、情景や場面を楽しんで読もうとしている。

(2) 読む

- ・登場人物の人柄や場面の情景を、叙述に即して読むことができる。
- ・現在 - 過去 - 現在という物語の構成の効果について理解することができる。

(3) 言語事項

- ・方言と共通語の違いを理解することができる。

4 単元指導計画と評価計画（9時間 本時 6/9）

| 過程 | 時 | 目 標 | 具 体 の 評 価 規 準 | | |
|-----|---|--------------------------------------|--|--|---|
| | | | B(概ね達成) | A(十分達成の一例) | C(努力を要する子への手立て) |
| つかむ | 1 | ・題名から読みの視点を持ち、文全体を読んで初発の感想を書くことができる。 | 関：強く心に残った文章・言葉・不思議に思ったことなど自分なりに書いている。 (ノート) | 強く心に残った文章・言葉・不思議に思ったことなどを素早く見つけ、進んで自分の考えを含めて書いている。 | おもしろいと思ったところ、心に残ったことなど、個別に聞いたり、示したりしながら意欲的に取り組めるようにさせる。 |
| | 2 | ・場面を分け粗筋を確認し小見出しを付けることができる。 | 読：登場人物やその行動をもとに、小見出しを付けている。 (ワークシート) | 登場人物やその行動をもとに、作品の流れがわかるように小見出しを付けている。 | 具体的にどのような場面なのかを聞いたり指示したりしながら、小見出しを考えさせる。 |

| | | | | | |
|------|---------|---|--|---|---|
| ふかめる | 3 | ・わらぐつに対するマサエとおばあちゃんの考え方の違いを読み取ることができる。 | 読：マサエとおばあちゃんの会話文を比較し、わらぐつに対するイメージの違いを書いている。 (ノート・発言) | マサエとおばあちゃんの会話文を比較し、わらぐつに対するイメージの違いやマサエと自分の共通点にふれながらまとめている。 | マサエの「だって」「なんて」「そんなの」という言葉からイメージの違いに着目させて考えさせる。 |
| | 4 | ・おみつさんの雪げたに対する思いを読み取ることができる。 | 読：家計のことを考えつつも雪げたにあこがれる気持ちを書いている。 (ノート・発言) | 雪げたにあこがれる思いが分かる会話文や行動を見つけ書き込みをし、家計のことを考えつつも雪げたにあこがれる気持ちに対して、自分の考えを含めて書いている。 | 雪げたへの思いが分かる文にサイドラインを引かせ、どうしてもあきらめられない気持ちをとらえさせる。 |
| | 5 | ・わらぐつに対するおみつさんの気持ちから、人柄を読み取ることができる。 | 読：おみつさんが見た目よりも履き心地を重視していることが分かる文を見つけ、おみつさんの人柄を読み取り書いたり、発表したりしている。 (ワークシート・発言) | おみつさんが見た目よりも履き心地を重視していることが分かる文を見つけ書き込みをし、おみつさんの人柄とそれに対する自分の考えを書いている。 | 「・・・のように」の3回の繰り返しの部分から誰の身になってわらぐつを作っているのかを考えさせ、人柄をとらえさせる。 |
| | 6 本時 | ・おみつさんが大工さんの仕事に対する考え方や物の見方に、しだいに共感していく気持ちを読み取ることができる。 | 読：大工さんの仕事に対する考え方や物の見方に共感していくおみつさんの気持ちを読み取り書いている。 (ワークシート・発言) | 大工さんの仕事に対する考え方や物の見方に共感していくおみつさんの気持ちを読み取り、自分の考えを含めながら書いている。 | 大工さんの考え方や物の見方がおみつさんと共通しているところを具体的に指示し、考えさせる。 |

| | | | | | |
|------|---|------------------------------------|---|--|---|
| | 7 | ・おばあちゃんの話の聞いたマサエの心の変容を読み取ることができる。 | 読：第1場面と第3場面を比較し、心がこもっている物には、神様がいるという話を信じるようになったマサエの心が分かる部分を見つけマサエの心の変容を読み取って発表したり、書いたりしている。 (ノート・発言) | 第1場面と第3場面を比較し、心がこもっている物には、神様がいるという話を信じるようになったマサエの心が分かる部分を見つけ書き込みをし、心の変容に対する自分の考えを含めて書いている。 | 第1場面と第3場面の会話文を示し、マサエがやさしい口調になったことに気づかせ、心の変容があったことをとらえさせる。 |
| まとめる | 8 | ・「神様」というキーワードから、主題を考えて感想を書くことができる。 | 書：一番心に残った事柄や言葉をもとに、「神様」とは、何のことを言っているのかを考え、まとめて書いている。 (ノート・発言) | 一番心に残った事柄や言葉をもとに、「神様」とは、何のことを言っているのか自分なりにまとめ、自分の今までの生活やこれからの生活にふれながら感想を書いている。 | 神様について言っている大工さんの言葉を第3段落から見つけさせ、それに対しての自分の感想を書かせる。 |
| | 9 | ・方言と共通語の特徴を理解することができる。 | 言：温かい感じがする方言の良さと誰にでも分かる共通語の良さを確認し、使い分けが大切であることを理解している。 (ノート・発表) | 方言の良さと共通語の良さを具体的にまとめ、使い分けが大切だということを理解している。 | 出てくる方言を見つけさせ、その良さを考えさせる。 |

5 本時の指導(6/9)

(1) 本時の目標

おみつさんが大工さんの仕事に対する考え方や物の見方に、しだいに共感していく気持ちを読み取ることができる。

(2) 指導にあたって

前時は、わらぐつに対するおみつさんの気持ちから人柄を読み取った。おみつさんの考え方や物の見方を把握しておくことが、本時の展開に大きくかかわってくる。

「一人学び」では、大工さんが仕事にどんな思いを持っているかが分かる叙述を見つけさせ、おみつさんが大工さんのどんなところに引かれていったのかを自分なりの考えを含めて書き込ませたい。

「学び合い」では、友達の考えについて共通点や違いを見出したり、分からないところを質問し合ったりして、読みを深めさせ課題解決につなげたい。

(3) 本時の展開

| 過程 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|-------------|---|---|---|
| つかむ 5分 | 1 前時の学習を振り返る。 2 学習課題を確認する。 | おみつさんの考え方・価値・本質を想起させる。 | |
| | おみつさんは、大工さんのどんなところに引かれていったのだろう。 | | |
| ふかめる 30分 | 3 学習場面を音読する。 ・ 微音読 4 おみつさんが大工さんに引かれていく様子を読み取る。 (1) 大工さんをどのように思っているか、おみつさんの気持ちが分かるところにサイドラインを引く。 (一人学び) (2) おみつさんの大工さんに対する気持ちを書き込む。(一人学び) 5 読み取ったこと発表し合い課題を解決する。 (1) おみつさんは大工さんのどんなところに引かれてたのかを話し合う。(グループ学習) (2) 自分たちの考えを発表し交流し合う。(学び合い) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習場面を確認させる。 ・ おみつさんの気持ちを表す言葉をおさえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 楽しみ 不思議 ありがたい 申し訳ない うなずきながら聞いた とてもたのもし えらい人のような気がしてきた </div> ・ 大工さんの言葉に着目させる。 表現の確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ~つもりだ ~仕事ってもんだ ~思ってるんだ </div> <p>表現にどんな気持ちが込められているか考えさせたい。その言葉をおみつさんがどのように受け止めているのかも考えさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書き込みをもとに発表しあう。 ・ 友達の考えをよく聞き、相違点や共通点に気づかせるようにする。 | <p>【評価】おみつさんの人柄と共通するところを見つけ、自分の考えを含めながら書き込みをすることができる。(ワークシート)</p> <p>【評価】おみつさんが大工さんの仕事に対する考え方や物の見方にしだいに共感していく気持ちを読み取ることができる。(ワークシート・発言)</p> |
| まとめ 10分 | 6 課題についてまとめる。 7 学習を振り返る。 8 次時の学習を確かめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流し合ったことをもとに課題についてまとめる。 ・ 本時の学習を振り返り、感想を発表する。 ・ マサエのものの見方・考え方が初めとどのように変わったのかを勉強することを知らせる。 | |

過去 (おばあちゃんの思い出話)

見た目よりも中身が大切だという考え方や、力強さや
優しさを持っている大工さん

わらぐつをはく人のことを考えて心をこめて作り、はきごこちを大切にしているおみつさん

共通 (考えが同じであること)

「なあ、おれのうちへ来てくれないか。そして、いつまでもうちにて、おれにわらぐつを作ってくれないかな」

おれはわらぐつをこぎえたことはいくらでも、おれだって職人だから、仕事
のよじあいは分かるつもりだ。いい仕事っていつのは、見かけで済まるものじ
やあない使つ人の身になって、使いやすく、じょうぶで長持ちするやつに作る
のがほんとのいい仕事で、おれながら、またわがぞうだけ、今にきつ
と、そんな仕事のできる、いい大工になりたいと思ってるんだ。

大工さん
「……もういいよ、いくらだね」

お客さん
「くすくす笑ったりあきれた顔をしたり
「いや、よかつただね」
「へえ、それ、わらぐつかね、おらまた、まんじゅうか
と思った」

その代わり
「上からつま先まで、すき間なく、きちんと編みこまれて
ていて、じょうぶな、はきのつえなです。」

いかに豪華な格好
「右と左で、大きさをちがうし、なんだか首をかした
みたいに、足首のところが曲がっています。それもこ
ほこして、ちゃんと置いてもらってほしいです。」

おみつさんの人柄
「自分で働いて、お金を作るよ。そして、あの雪けたを買おう。」

毎晩、家の仕事をすませてから、わらぐつを作り始めました。

小さい弟と妹がわいわい言い出したので、もう自分のわだり「わらぐつ」はなへ
一生けんめい、こどもたちのためやくに回らなくてはなりませんでした。

おれは……いい
仕事と、いつのは、
見かけで済まるん
じやない……ほ
んといい仕事つ
てもんだ。

白いおが夕焼け
のように赤くなり
ました。

でも、おみつさん
は、少しへらい格
好が悪くてもはく
人がはきやすいよ
うに。

がんばり

現在（マサエの家庭の話）

心をこめて作ったものには神様がやどっているという話を信じ、おばあちゃんの話を受け止めるマサエ

「それからわかい大工さんは言ったのさ。使う人の身になって、心をこめて作ったものには、神様が入っているのと同じなんだ。それを作った人も、神様と同じなんだ。……どうだい、いい話じゃろ。」

マサエ

目をくりくりませて聞きました。

ばちゃんと手をたたいて、目をかがやかせました。

「ふうん、だけど、おじいちゃんがおばあちゃんのために、せつせつと働いて買ってくれたんだから、この言けたの中にも、神様がいるかもしれないね。」

おばあちゃん

「このうちにおよめに来るとすべ、おじいちゃんが買ってくれたよ。あんまりうれしくって、もったいなくてはく気にならなかつた。……。」

「はげななつても、こうして大事にしまっておくんだよ。」

マサエ

赤いつまの皮の雪けたをかかえたまみ、「おかえんなさー。」とおげんで、げんかんへ飛び出していきました。

それからわかい大工さんが言ったのさ……どうだい、いい話じゃろ。

あめとても幸せにくらしているよ。

おばあちゃんの名前は山田みつ あつ

……この言けたのなかにも神様がいるかもしれないね。

ああきつといるだろうね。……

……飛び出していきました。

わらべの中の神様

杉 みぎ子

課題

おみつさんは 大工さんのように引かれていったのだらう。

おみつさん
の気持ち

その次も、またその次も、おみつさんが市に出るたびに

楽しみ
不思議
ありがたい
申し訳ない

大工さんの言葉

「おれは わらべつをこきえたことはいけども、おれだって職人だから、しごとのおしあしは分かるつもりだ。いい仕事ってのは、見かけで決まるもんじゃやない。使つ人の身になって、使いやすく、しよぶで長もちするようにつくるのが、ほんとのいい仕事ってもんだ。おれなんか、まだわかぞうだけど、今にきつといい仕事のできる、いい大工になりたいと思ってるんだ。」

こつくりこつくりつなずきながら聞いた
なんだかとてもたのもし
えらい人のような気がしてきた

「なあ、おれのうちへ来てくんないか。そして、いつまでもうちについて、おれにわらべつを作ってくんないかな。」

白いほおが夕焼けのように
赤くなりました。

大工さんもおみつさんと同じように、外見で物事を判断するのではなく、本質を見る人だから次第に引かれていった。
おみつさんも使つ人の身になってわらべつを編んだ。その気持ちを大工さんだけがわかった。だから、大工さんのことが好きになった。